CAR MATE
0373-3311A

スターテックスTE830
〈取扱説明書・保証書〉

目　次

ページ

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

警告・注意事項（必ずお読みください） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

TE830の特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

内容物・各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
- リモコン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- メインユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- アンテナユニット・ドアロックコード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

使いかたの基本 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- リモコンの電源スイッチを入れる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- リモコンでエンジンをかける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- リモコンでエンジンを止める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- ドアをロックする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
- ドアをアンロックする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 車両状態のチェックをする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
- ターボタイマーを使用する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

基本的な本体設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する ・・・・・・・・・ 24
- エンジンスターターの自動停止時間を設定する ・・・・・・・・・ 25
- グロータイムの設定 ・・・・・・・・・ 26
- ターボタイマー機能の作動時間設定 ・・・・・・・・・ 27
- LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する ・・・・・・・・・ 28

ページ

システム初期設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
サイドブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・ 30
P/N検出・フットブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・ 31
ホンダABS装着車に取付ける場合の設定 ・・・・・・・・・・ 32
ノイズ検出モードの設定 ・・・・・・・・・・ 33
スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 34
ボンネットオープンセンサーを使用する場合の設定 ・・・・・・・・・・ 35
P/N検出時のST1/ST2切替 ・・・・・・・・・・ 36
P/N検出データの設定方法 ・・・・・・・・・・ 37

取付け後のメンテナンスなど ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法） ・・・・・・・・・・ 40
リモコンの電池交換について ・・・・・・・・・・ 41
交換用ヒューズについて ・・・・・・・・・・ 42
バッテリー交換時などのP/N検出データ再設定について ・・・・・・・・・・ 43
エンジンスターター機能が作動しない場合 ・・・・・・・・・・ 44
故障かな?と思ったら ・・・・・・・・・・ 47

仕様 ・・ 50

保証書 ・・ 51

はじめに

このたびは、スターテックスTE830をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、テレコントロール・エンジンスターターTE830をご使用頂くためのガイドブックです。
この製品は、一定の安全条件を満たしている場合に、遠隔操作により車のエンジンをスタートさせる（ドアロック/アンロックさせる）とともにターボ車のタービントラブルを未然に防ぐため、アフターアイドリングを行う装置です。この製品を正しく安全にご使用頂くために、この取扱説明書をよくお読みになり、内容を理解された上で実際にご使用ください。お読みになった後も、この取扱説明書は、車検証入れなどすぐに取出せる場所に保管し、ご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、お役立てください。
また、本品を譲られる場合は、次に使用される方に本書も併せてお譲りください。尚、誤った取付、使用による事故、破損などの責任は一切負いかねます。

注意事項の定義

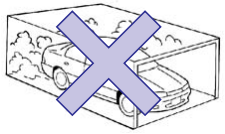
この取扱説明書の注意事項は、そのレベル、内容ごとにマークを設けています。
各々の定義（意味）を充分に理解された上で、お取扱いください。

危険 重大事故が起こる状況のもの
警告 人体に対し、危険が生じる恐れのあるもの
注意 物品を破損、故障させる恐れのあるもの
参考 取付け、取扱において知っていると有益な情報

警告・注意事項（必ずお読みください）

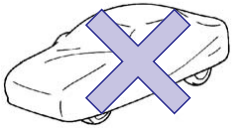
警告事項

⚠警告



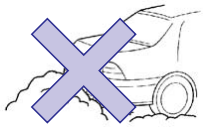
換気の良くない場所（ガレージ・立体駐車場・地下駐車場）で使用しないでください。
排気ガスが充満して大変危険です。

⚠警告



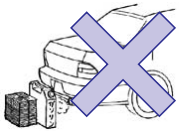
車にボディカバーを掛けたままで使用しないでください。
火災の恐れがあります。

⚠警告



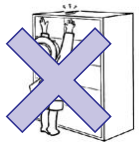
マフラーが雪で埋もれた状態で使用しないでください。
排気ガスが車内に充満する恐れがあります。
また配線の損傷による車両火災の原因にもなりますので大変危険です。

⚠警告



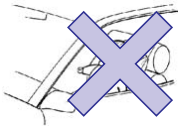
車の近くに燃えやすいものがないことを確認してから、ご使用ください。
火災の恐れがあります。

⚠警告



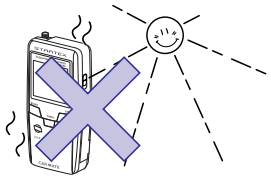
リモコンは、お子様の手に届く場所には置かないでください。
誤操作による事故の恐れがあります。

⚠警告



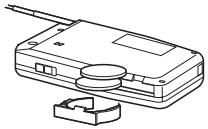
お子様などを車内に残したままで、使用しないでください。
事故の恐れがあります。

⚠警告



リモコンは、直射日光の当たる場所・車内・暖房器具の近く等、高温になる場所で、保管または使用しないでください。
リモコンが高温になりやけどや故障の原因となります。
特に、車のダッシュボード上は非常に高温となりますので、絶対に放置しないでください。

⚠警告



車を他人に預ける時（整備に出す等）は、リモコンの電池を抜いておいてください。
誤操作による事故の恐れがあります。

⚠警告

運転中に本品の操作をしないでください。
事故の原因になります。

⚠警告

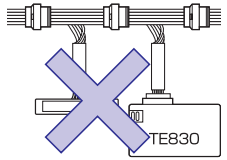
ターボタイマー機能を使用する際は、必ずシフトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを抜いたままシフトレバーを動かすことができる一部の車両は、ターボタイマー機能を使用しないでください。
事故の原因になります。

警告・注意事項

警告・注意事項（必ずお読みください）

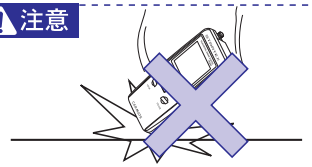
注意事項

⚠注意



ターボタイマー（スターター）や盗難警報機類（当社指定品を除く）との、併用取付けはしないでください。
誤作動の原因となります。

⚠注意

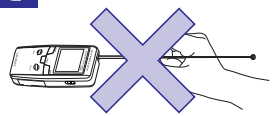


リモコンを床に落としたり硬いものにぶつけたりしないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。

⚠注意

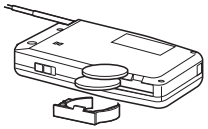
リモコンは直接水のかかる場所や湿気の多い場所で、保管または使用しないでください。
故障の原因となり、リモコンでの操作ができなくなる場合があります。

⚠注意



リモコンのアンテナに強い力がかかるような持ち方をしないでください。破損の原因となります。

⚠注意



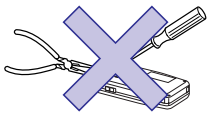
長時間使用しないときは、リモコンの電池を抜いておいてください。
故障の原因となります。

⚠注意

製品が汚れた場合は、薄めた中性洗剤をしみ込ませた布をよく絞ってから拭き、乾いた布でもう一度拭いてください。
ベンジン、シンナー等の化学薬品は、絶対に使用しないでください。 変形・変色や故障の原因となります。

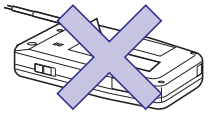
禁止事項

⚠禁止



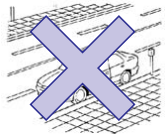
この製品は、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けております。分解したり、改造することは、法律で禁じられておりますので、絶対にしないでください。

⚠禁止



製品に貼付の技術適合証明ラベルをはがしたり、ラベルのないものを使用することは、法律で禁じられておりますので、絶対にしないでください

⚠禁止



安全な場所でご使用ください。道路で使用すると違法となりますので、絶対に使用しないでください。

⚠禁止

12V車専用です。
トラックなどの24V車には、お取付けできません。

⚠禁止

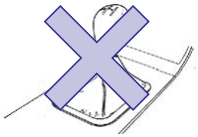
この製品は、日本の電波法に適合しています。国外での使用は、違法となる場合がありますので、おやめください。

⚠禁止

一部地域では、暖機運転以外の目的で使用すると条例違反となります。

警告・注意事項（必ずお読みください）

禁止事項



●マニュアル車には、取付できません。

⚠危険

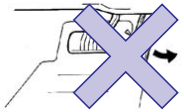
マニュアル車へ取付けることは、絶対にしないでください。
マニュアル車は、冬季にサイドブレーキの凍結を防ぐため、サイドブレーキを引かずにギアを「ロー」もしくは「バック」に入れ駐車する場合があります。また、坂道などに駐車する際にもギアを「ロー」もしくは「バック」に入れます。
その際に、エンジンスターターを使用すると、無人走行の原因となり、思わぬ大事故につながります。

●外車には、取付できません。

●キーフリーシステム・スマートキーシステム装着車には、取付できません。

●89年以前の車でシフトロックが装着されていない車（フットブレーキを踏まずにセレクトレバーが「P」から移動できる車）には、取付けできません。

●エンジン始動時に下記のような場合には、お取付けできません。



［アクセル操作が必要な車］

［チョークレバーを引く車］

［年間通じて、キーを回して2秒程度でエンジンのかからない車］

●ホンダ車の雨滴感応ワイパー装備車には、お取付けできません。
取付けすると故障の原因となります。

参考 本品のリモコンはアンテナを一杯に伸ばした状態が最も良く電波の送受信を行える状態になります。このため、アンテナを縮めた状態の電波到達距離は短くなりますのでご注意下さい。

参考 電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なります。車と送信場所との間に建物等がある場合には、電波到達距離が短くなります。

参考 ほとんどの純正リモコンドアロック装着車は、車両の仕様上、エンジン始動中に純正リモコンドアロックが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能でのエンジン始動中は本品のドアロック/アンロック機能を使用するか、キーでドアを開ける必要がありますのでご了承ください。

参考 極まれに、本品と純正のキーレスエントリーの電波が干渉し、キーレスエントリーの作動距離が極端に短くなる場合があります。その場合はアンテナユニット及びメインユニットの取付位置を変更することで改善することがあります。

参考 本品のリモコンは、低温になる場所に置いておくと一時的に電池電圧が低下して液晶やバックライトの表示が薄くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。

参考 本品のそばで大出力の無線機等を使用すると、無線機の発する電磁波により、誤作動や未作動の原因となる場合があります。

参考 オートライトコントロール装着車は、ライトスイッチがAUTOの位置で本品を作動させると、オートライト機能が正常に作動しない場合があります。ライトスイッチは必ずOFFの位置にしてご使用ください。

参考 オートチルトおよびマイコンプリセットステアリング装着車は、本品でエンジン始動した状態でイグニッションキーを差込んでもオートチルトおよびマイコンプリセットが作動しなくなりますので、キーでエンジンを再始動してください。

TE830の特徴

■電波到達距離見通し最大3,600m（※）

スターテックスシリーズの特徴である電波到達距離3,600m（市街地最大1,000m）を実現したことで、遠距離からのエンジン始動がより確実に行なえます。
（※）電波到達距離は、アンテナを伸ばした状態で見通しの良い場所（平地）での当社実験にて記録した飛距離です。電波到達距離は、周囲の環境や使用状況により異なりますのでご了承ください。

■多彩なアンサーバック機能

エンジン情報・ドアロック状態（※）・アイドリング残時間・車内温度・車外温度（オプション）・車両バッテリー電圧をリモコンの大型液晶にデジタル表示します。
（※）ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロック及びドアアンロックの操作のみが反映されるものです。

■快適な操作性

1操作を1つのボタンで行なうため、面倒な2度押しなどの操作がありません。ストレスを感じない快適な操作性を実現しました。

■スターターカット機能（→P34）

本品のリモコンでドアロック操作を行なう事により、キーによるエンジン始動ができなくなるため、車両盗難（乗逃げ）の防止に絶大な効果があります。
（※）スターターカット機能はドアロック配線を行なっていない場合でも使用できます。また本機能を使用するには、スターターカット機能の設定（→P34）を行なう必要があります。

■ドアロック機能（→P19・P20）

本品のリモコンで遠距離からでもドアロック（アンロック）が可能なため非常に便利です。また、別売のTE410「スターテックス・ハザードフラッシュリレー」を組み合わせる事によりハザード連動も可能です。
（※）ドアロック機能は別途アダプターが必要な場合や、車種によってはご使用いただくことができない場合があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表を参照ねがいます。

■アイドリング延長機能

本品でのエンジン始動中に再度STARTボタンを押すことにより、設定した自動停止時間（→P25）までアイドリング時間を延長することができます。

■ターボタイマー機能（→P27）

ターボ車のアフターアイドリングを行なうためのターボタイマー機能を搭載しました。アフターアイドリングの時間は、0分（なし）・1分・2分・3分から選択することが可能です。

■アフターセレクト機能

セルモーター回転時間（1秒/1.5秒）・自動停止時間（15分/30分）・グロータイム（5秒/8秒）・ターボタイマー時間（0/1/2/3分）・LEDスキャナー機能（ON/OFF）の各種設定が、アンテナユニットの設定スイッチを切替えるだけで簡単に変更できるようになっています。

■威嚇LEDスキャナー機能（→P28）

アンテナユニット内蔵の赤色LEDスキャナーが点滅することで、車上狙いなどの犯罪者を心理的に威嚇します（OFF可）。

■スペアリモコン対応＜別売＞（→P40）

標準装備のリモコンと併せて合計2台までのリモコンが使用可能です。リモコンの追加登録は面倒なユニットの取り外しなどを行なわずに簡単にできるようになっています。

■カーセキュリティ連動可能（※）＜別売＞

本品のリモコンで、別売のカーセキュリティシステム「スーパーバリケード・SQ2000」のON・OFFが可能です。
（※）取付には別途「TE414 スターター・セキュリティ接続キット2」が必要です。

■純正イモビライザー装着車対応（※）

純正イモビライザー装着車でもエンジンスターターがお使いいただけるよう、別売のアダプターを用意しました。
（※）車種により適合の可・不可があります。詳しくは店頭の車種別ハーネス適合表を参照ねがいます。

■リトライ機能

一度の始動動作でエンジンが掛からない場合でも、自動的にセルモーターの回転時間を延長しながら合計3回まで再始動を試みますので厳冬期でも安心です（最長セルモーター回転時間=約2.5秒）。

■自動停止機能（→P25）

本品によるエンジン始動後15分（または30分）経過すると自動的にエンジンが停止します。

■誤操作防止機能（→P16）

カバンやポケットの中での思わぬ誤操作を防ぐため、リモコンに電源スイッチを装備しました。

■スリープモード

バッテリーの負担を軽減させるために、約2週間エンジンの始動を行なわなかった場合にLEDスキャナーおよびエンジンスターターの機能を自動的に停止します。

■電波法適合品

本品の特定小電力無線は日本国内の電波法に適合していますので安心してお使い頂くことができます。

■寒冷地推奨品

本品のメインユニットは−20℃でも動作可能なため、厳冬期でも安定した動作を実現します。

■車検対応品

本品は車検対応品です。

■安心の日本製で、信頼の3年保証

TE830は日本製。徹底した品質管理により、信頼の3年保証を実現しました。

内容物・各部の名称

ページ

リモコン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
メインユニット ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
アンテナユニット・ドアロックコード ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
その他付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

内容物・各部の名称

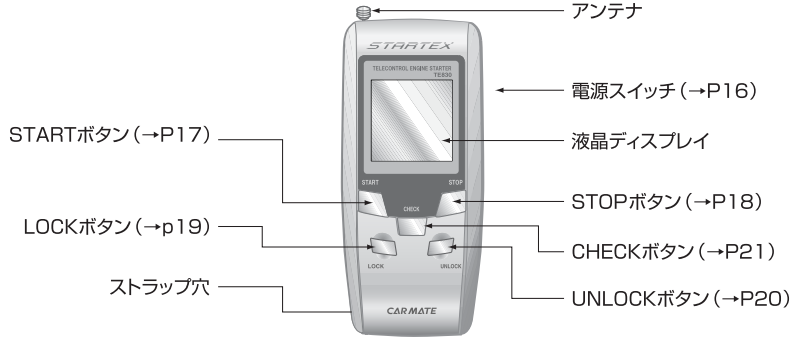
内容物・各部の名称 ①

リモコン （1ヶ）

エンジンのスタート・ストップや、ドアのロック・アンロックをコントロールするための
リモコンです。

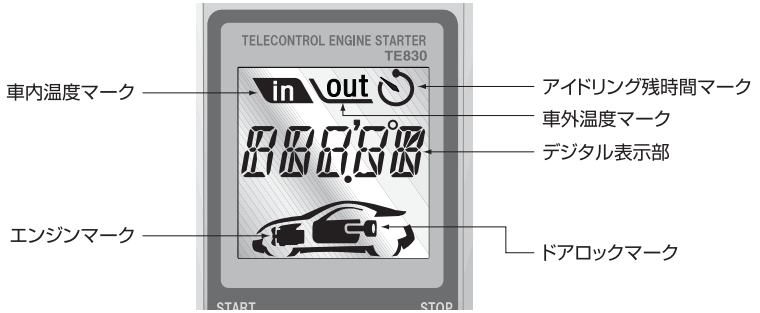
参考

本品のリモコンはアンテナを一杯に伸ばした状態
が最も良く電波の送受信を行える状態になります。
このため、アンテナを縮めた状態の電波到達距離
は短くなりますのでご注意下さい。



リモコン（液晶ディスプレイ）

多彩な情報を
わかりやすく表示します。

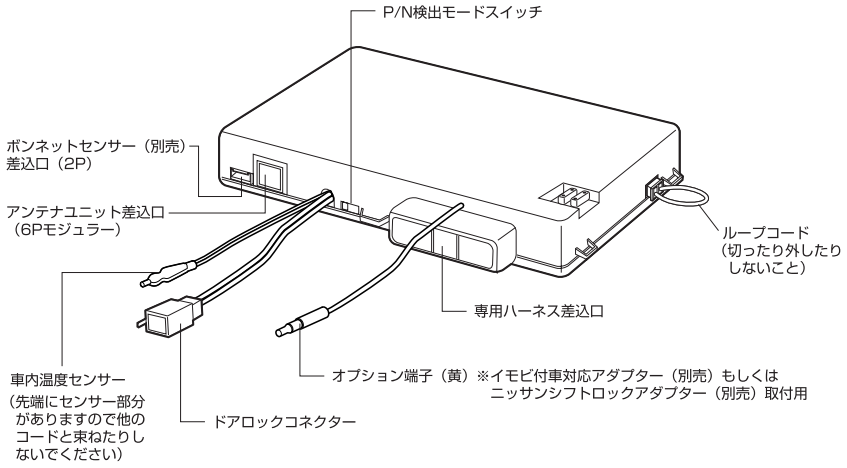


内容物・各部の名称 ②

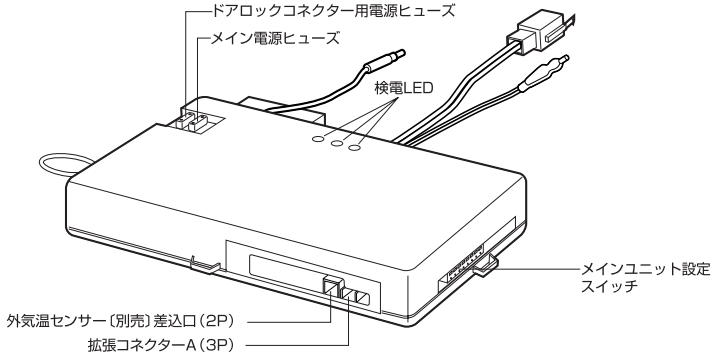
メインユニット （1ヶ）

本製品の心臓部です。エンジンのスタート・ストップやドアのロック・アンロックなど様々なコントロールを行います。

▼専用ハーネス側



▼設定スイッチ側

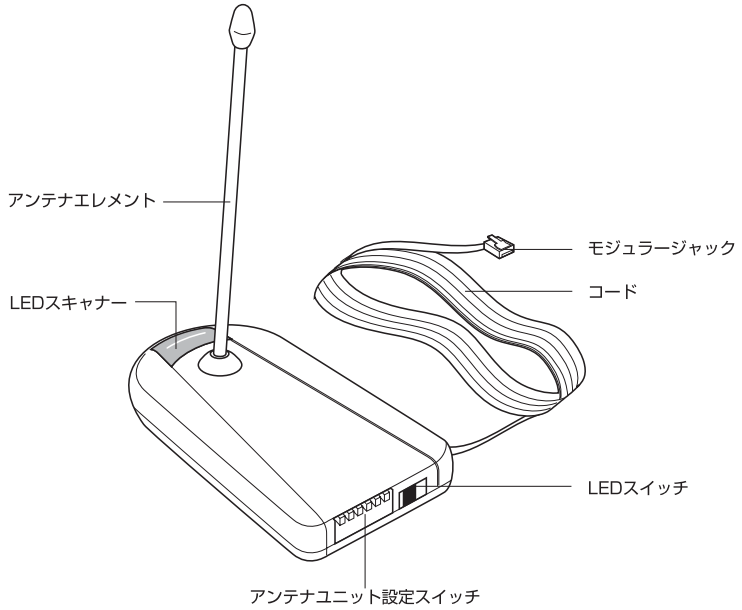


内容物・各部の名称

内容物・各部の名称 ③

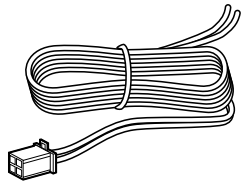
アンテナユニット （1ヶ）

リモコンとの通信を行います。



ドアロックコード （1ヶ）

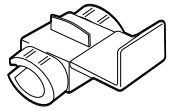
車両のドアロック・アンロックをコントロールするためのコードです。



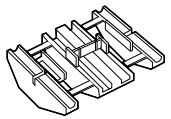
内容物・各部の名称 ④

その他付属品

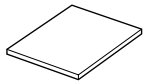
●ワンタッチコネクターA… 4ヶ
ドアロックコードなどの配線に使用します。



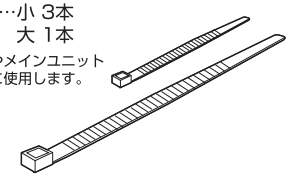
●ワンタッチコネクターB… 1ヶ
フットブレーキ検出コードの配線に使用します。



●両面テープ… 2枚
アンテナユニットの取付けに使用します。



●結束バンド…小 3本
大 1本
配線の結束やメインユニットの固定などに使用します。



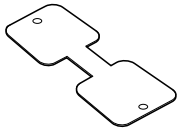
●危険シール… 1枚
エンジンルーム内の目立つ場所に貼付けます。

●モードシール… 1枚
運転席ドアを開けた時に見えるドアの付け根付近などに貼付けます。

●バッテリー交換時の注意… 1枚
車両バッテリー付近に貼付けます。

●ストラップ… 1ヶ
リモコンのストラップ穴にヒモ部分を通して使用します。

●アンテナステー… 1ヶ
アンテナユニットの取付けに使用します。



使いかたの基本

この項では、本品の基本的な使いかたについて解説しています。

ページ

リモコンの電源スイッチを入れる ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
リモコンでエンジンをかける ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
リモコンでエンジンを止める ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
ドアをロックする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
ドアをアンロックする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
車両状態のチェックをする ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
ターボタイマーを使用する ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

使いかたの基本

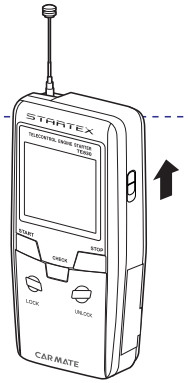
リモコンの電源スイッチを入れる

解説

本品のリモコンには、電源スイッチが装備されています。使用時は必ずONの状態でお使いください。
電源スイッチがOFFの状態の場合、リモコン操作ができません（誤操作防止機能）。

操作方法

❶ リモコン右横の電源スイッチを上にスライドさせます。



❷ リモコンが「ピピッ」と鳴り、液晶ディスプレイの全表示及びバックライト（青・赤）が2秒程度点灯します。

❸ さらに5秒程度右のような表示に切り替わり、液晶ディスプレイが消灯します。

これでリモコンの電源がONになりました。

※上記❷～❸の表示中でもボタン操作は可能です。

参考 電源スイッチを一旦OFFにし、すぐ（約2秒以内）に再びONに切り替えた場合は、上記 ❷～❸ の表示が行なわれない場合があります。

リモコンでエンジンをかける

※純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、エンジンスターター始動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります。（本品のドアロック機能は働きます。）

この機能を使用する前に

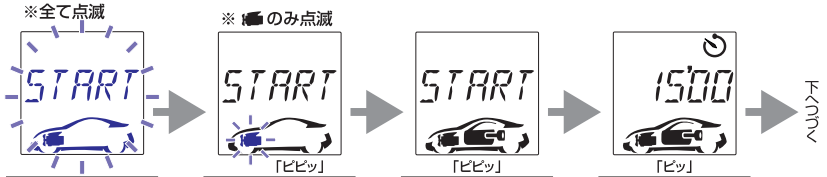
必ずP5～P7の警告事項および注意事項をお読みになった上でご使用ください。

参考 ・リモコンでエンジンを掛けた後、実際に走行するには、そのままキーを差し込んでイグニッションをONにする必要があります。（一旦エンジンを止めてキーで掛け直す必要はありません。）

操作方法

1 リモコンの START ボタンを「ピピッ」と鳴るまで押します。

2 以下のような表示が行なわれます（表示の切り替え毎に青色バックライトが点灯します）。

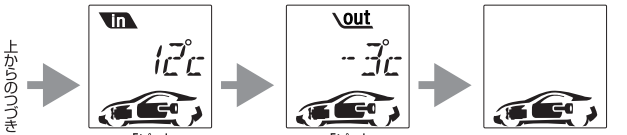


電波送信中
リモコンから車のアンテナユニットにエンジンスタートの信号を送信しています。

始動動作中
リモコンからの信号が車に届きました。
メインユニットがエンジンを始動させる準備をしてからセルモーターを回します。（※1）

始動確認OK
が点灯にかわり、エンジンが掛かったことを表します。（※2）
※ 同時にドアロックの状態もアンサーバックされます。が点灯していればドアロックされている事を表します。（※3）

アイドリング残時間表示
残りのアイドリング時間を表示します。
（1500 または 3000）



車内温度表示（※4）
車内温度がデジタル表示されます。

車外温度表示（※4）
外気温がデジタル表示されます。
※ オプションの外気温センサー装着時のみ

表示終了
バックライトが消灯し、エンジン及びドアロックの状態のみ5秒間表示します。

（※1）エンジンが掛かったかどうかメインユニットが判断するまでこの表示が続きます。また、すでに本品によるエンジン始動が行なわれている場合は、この表示は行ないません。
（※2）30秒以内にリモコンがエンジン始動確認OKの信号を受信できなかった場合は、これ以降の表示を行ないません。
（※3）ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー（純正キーレス）などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。
（※4）温度表示は取付場所によって実際の温度とは異なる場合があります。

参考 途中で赤色バックライトが点灯しエラー表示（Err 99 など）が出る場合はP45・P46のエラー表示一覧をご覧ください。

参考 すでに本品よりエンジンが始動している状態から本ページの操作を行なうと、再び設定した自動停止時間（→P25）までアイドリング時間を延長します（アイドリング延長機能）。

参考 エンジンスターターによるエンジン始動中はアンテナユニットのブザーが約1秒おきに「ピッピッ……」と鳴りつづけます。

これで車両のエンジンが正常にスタートしました。

正常に操作できているにもかかわらず、エンジンが始動しない場合は、44～46ページの「エンジンスターター機能が作動しない場合」をご覧ください。

使いかたの基本

リモコンでエンジンを止める

参考 ・本操作でエンジンを停止できるのは、本品によってエンジンを掛けた場合と、ターボタイマー機能によりアフターアイドリングを行なっている場合だけです。
・キーシリンダーにキーを差して「イグニッションON」（通常走行の位置）に回している場合は本操作でエンジンを止めることはできません。

操作方法

1 リモコンの STOP ボタンを「ピー」と鳴るまで押します。

2 以下のような表示が行なわれます。

電波送信中
リモコンから車のアンテナユニットにエンジンストップの信号を送信しています（青色バックライトが点灯します）。

エンジン停止
車のエンジンが停止しました（赤色バックライトが点灯します）。
※ 同時にドアロック状態もアンサーバックされます。が点灯していればドアロックされていることを表します。（※1）

表示終了
バックライトが消灯し、エンジン及びドアロックの状態のみ5秒間表示します。

（※1）ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー（純正キーレス）などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。

参考 途中で赤色バックライトが点灯し、エラー表示（Err 99 など）が出る場合はP45・P46のエラー表示一覧をご覧ください。

これで車両のエンジンが正常に停止しました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。

- ●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
- ●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
- ●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
- ●リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。

これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

ドアをロックする

参考
・この機能は、ドアロック適合車種に対して、ドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。
・スターターカット機能が「ON」の場合（→P34）、本品によるドアロック中はスターターカット機能が働くため、キーでエンジンを掛けることができません。（ドアロックの配線を行なっていない場合でもスターターカット機能は使用できます。）
・この操作によりスターターカット機能（→P34）を働かせた状態でリモコンの電池切れや紛失があった場合、純正キーでもエンジンを掛けることができなくなりますのでご注意ください（スターターカット機能設定時のみ）。

操作方法

まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

1 リモコンの LOCK ボタンを「ピロッ」と鳴るまで押します。

2 以下のような表示が行なわれます。

※全て点滅

電波送信中	ドアロック（「ピピッ」）	表示終了
リモコンから車のアンテナユニットにドアロックの信号を送信しています（青色バックライトが点灯します）。	車のドアがロックされました。 ※ 同時にエンジンの始動状態もアンサーバックされます。青色バックライトと共に が点灯していれば本品によるアイドリングが行なわれている事を表します。 エンジンが掛かっていない時は赤色バックライトが点灯します。	バックライトが消灯し、エンジン及びドアロックの状態のみ5秒間表示します。

参考 途中で赤色バックライトが点灯し、エラー表示（Err99 など）が出る場合はP45・P46のエラー表示一覧をご覧ください。

これでドアがロックされました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
●リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。
これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

使いかたの基本

ドアをアンロックする

参考
・この機能は、ドアロック適合車種に対して、ドアロック配線を行なっている場合のみ作動します。
・純正キーレスエントリーにドアの自動再ロック機能がついている車でも、本品のリモコンでドアアンロック操作を行なった場合は自動再ロック機能が働かないことがありますので、ご注意ください。

操作方法

まず、車両の全てのドアが閉じられていることを確認します。

1 リモコンの UNLOCK ボタンを「ピロロ」と鳴るまで押します。

2 以下のような表示が行なわれます。

※全て点滅

電波送信中	ドアアンロック（「ピピッ」）	表示終了
リモコンから車のアンテナユニットにドアアンロックの信号を送信しています（青色バックライトが点灯します）。	車のドアがアンロックされました。 ※ 同時にエンジンの始動状態もアンサーバックされます。青色バックライトと共に が点灯していれば本品によるアイドリングが行なわれている事を表します。 エンジンが掛かっていない時は赤色バックライトが点灯します。	バックライトが消灯し、エンジン及びドアロックの状態のみ5秒間表示します。

参考 途中で赤色バックライトが点灯し、エラー表示（Err99 など）が出る場合はP45・P46のエラー表示一覧をご覧ください。

これでドアがアンロックされました。

参考

正常に通信を行なう事ができない（通信不成立）場合は、以下のような要因が考えられますが異常ではありませんのでご了承ください。
●リモコンが電波を送信しようとした時、同じタイミングでアンテナユニットも電波を送信しようとしていた。
●リモコンが電波を送信しようとした時、周囲に同じ周波数帯の別の電波が飛んでいた。
●車両との距離が遠く、車両に電波が届いていない。
●リモコンのアンテナを収納したまま操作したため、車両まで電波が届かなかった。
これらの場合、しばらく時間を置いたり、車両との距離を縮めるなどして再度操作することで正常に作動します。

車両状態のチェックをする

解説　本品のリモコンを使用して様々な車両状態がチェックできます。

参考　・ドアロック状態は、ドアロック配線をしていない場合にも表示されます（本品のリモコンからのドアロックおよびアンロックの操作が反映されます）。

操作方法

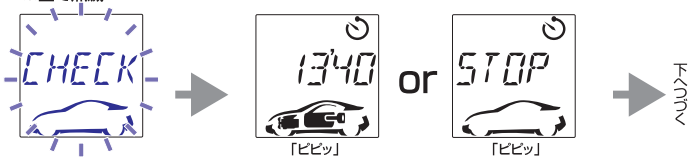
1. リモコンの CHECK ボタンを「ピピッ」と鳴るまで押します。

2. 以下のような表示が行なわれます。

エンジン・ドアロック状態以降のバックライトが点灯色

エンジン始動中	青 色
エンジン停止中	赤 色

※全て点滅



「ピピッ」　「ピピッ」

電波送信中

リモコンから車のアンテナユニットに車両状態チェックの信号を送信しています（青色バックライトが点灯します）。

エンジン・ドアロック状態表示

本品によるアイドリング中

アイドリング残時間を10秒単位で青色バックライトと共に表示します。但し、ターボタイマー作動中は Turbo の文字が点灯します。

エンジン停止中

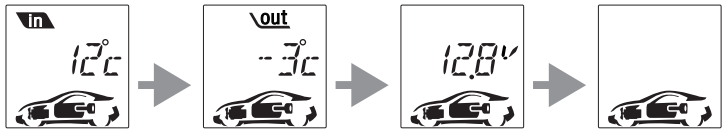
赤色バックライトと共に STOP の文字が表示されます。
但し、本品によるエンジン始動を試みている間は、赤色バックライトと共に TRY の文字と試行回数が合わせて表示されます。

キーによるエンジン始動中

この表示を行ないません。

同時にドアロックの状態もアンサーバックされます。
が点灯していればドアロックされている事を表します。
（※1）

上からつづき



「ピッ」　「ピッ」　「ピッ」

車内温度表示

車内温度がデジタル表示されます。

車外温度表示

外気温がデジタル表示されます。

＊オプションの外気温センサー装着時のみ

車両バッテリー電圧表示

車両バッテリー電圧が表示されます。

表示終了

バックライトが消灯し、エンジン及びドアロックの状態のみ5秒間表示します。

（※1）ドアロック状態のアンサーバックは本品のリモコンで行なったドアロックの状態が反映されるものですので、純正キー（純正キーレス）などでドアのロック/アンロックを行なっても表示には反映されません。

ターボタイマーを使用する

本品には、アフターアイドリングが必要なターボ車のために「ターボタイマー機能」が装備されています。ターボタイマー機能を使用すると、キーをOFFにしてエンジンを止めた後、設定した時間に応じたアフターアイドリングが行なえます。

警告　・ターボタイマー機能を使用する際は、必ずシフトレバーが「P」の位置でキーを抜いてください。また、カウントダウン中にキーを抜いたままシフトレバーを動かすことができる一部の車両は、ターボタイマー機能を使用しないでください。事故の原因になります。

参考　・キーによるエンジン始動時間が約10秒未満の場合は、ターボタイマーは作動しません。

操作方法

・ターボタイマーを使用するには本体の設定が必要です（→P27）設定が行われていない場合は本機能は作動しませんのでご注意ください。

1. エンジンが始動している状態（通常の走行状態）から、イグニッションキーをOFFにします。

2. 自動的にターボタイマーのカウントダウンが始まります。

参考　ターボタイマーによるアフターアイドリング中は、アンテナユニットのブザーが約1秒おきに「ピッピッ……」と鳴りつづけます。

3. 設定した時間（→P27）が経過すると、自動的にエンジンが停止します。

カウントダウン途中でエンジンを停止したい場合は、リモコンの STOP ボタンを押すか、安全機能を利用する方法があります。

▼安全機能を利用してターボタイマーをカウントダウン途中で止める方法

P/N検出を行なっている場合	ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、イグニッションキーを「ON」にしてシフトレバーを一旦「P」から「R」に動かすとカウントダウンが停止します。カウントダウンが停止したらシフトレバーを「P」に戻し、5秒以内にキーでエンジンを切り、キーを抜いてください。
フットブレーキ検出を行なっている場合	ターボタイマー作動開始から約3秒以上経過したあと、車両のフットブレーキを踏むとエンジンは止まります。

※サイドブレーキ検出を行なっている場合はサイドブレーキを掛けなければターボタイマーは作動しません。

参考

ターボタイマー機能は、NA車などターボタイマーが必要ない車両にも設定することができますが、その場合無駄なアイドリングを行う事となり、排気ガスが環境に悪影響を及す原因となるばかりか、騒音の発生やアイドリング時の燃料消費による燃費の悪化を招くため、特にアフターアイドリングの必要がない車種の場合は設定しないようにお願いします。

- ●純正キーレスエントリー装着車の場合、車両側の構造上、ターボタイマー作動中は純正キーレスエントリーの操作を受け付けない場合があります（本品のドアロック機能は働きます）。
- ●ガソリンスタンド利用時など、ターボタイマーを途中で止めたい場合は、リモコンからエンジンを停止させる操作をするか、安全機能（P/N検出もしくはフットブレーキ検出）を利用してエンジンを止める事ができます。

基本的な本体設定

この項では、使用状況に合わせて簡単に設定できる便利な機能を解説しています。
この項で行なう設定はアンテナユニットのスイッチを使用して行ないます。

エンジンスターターのセルモーター回転時間を設定する ・・・・・・・・ 24
エンジンスターターの自動停止時間を設定する ・・・・・・・・ 25
グロータイムの設定 ・・・・・・・・ 26
ターボタイマー機能の作動時間設定 ・・・・・・・・ 27
LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する ・・・・・・・・ 28

エンジンスターターの セルモーター回転時間を設定する

解説

本品は、エンジンスターター作動時のセルモーターの回転時間を2段階で切り替えることにより確実なエンジン始動を行うことができます。

▼セル回転時間について

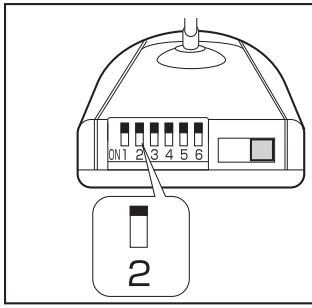
短め（約1秒）	通常はこちらの位置で使用してください。（工場出荷時設定）
長め（約1.5秒）	通常のセルモーター回転時間ではエンジンが始動できない場合はこちらに切り替えて使用してください。特に冬期（寒冷時）はエンジンの掛かりが悪くなる傾向があるので、冬期のみこちらに切り替える必要がある場合もあります。

参考

- 本品は、一度目の始動動作でエンジンが掛からなかった場合、リトライ機能が働き、最初の始動と合わせて合計3回のエンジン始動を試みます。またその際は、一回の始動毎にセルモーターの回転時間が0.5秒づつ長くなる仕様となっています（最長時で約2.5秒となります）。
- 短めの設定で正常に始動する車両に対して「長め」の設定を行なうと、エンジンが掛かった後もセルモーターが回ることになり、その時セルモーターから「カリカリ‥」と異音が発生する原因となります。
- 純正イモビライザー装着車は、車両構造上セルモーターを長めに回す必要があります。純正イモビライザー装着車でエンジン始動が行なわれない場合は「長め」の設定をお試しください。

設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.2「セル回転時間」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	セル回転時間
OFF（上側）	短め（約1秒）（標準設定）
ON（下側）	長め（約1.5秒）

エンジンスターターの自動停止時間を設定する

解説

本品は、リモコンでエンジンを始動した後そのままにしておくと、設定した時間でエンジンを自動的に停止するようになっています。
寒冷地などで、15分では暖機運転が完了しない場合は30分に設定することができます。

⚠注意

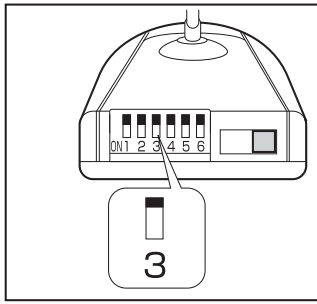
いずれの設定の場合も、必要以上の無駄なアイドリングは避けてください。
排気ガスなどにより環境汚染の原因となります。

参考

すでに本品によりエンジンが始動している状態からエンジンスタートの操作（→P17）を行なうと、再び本ページで設定している自動停止時間までアイドリング時間を延長します（アイドリング延長機能）。

設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.3「アイドリング時間」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	アイドリング時間
OFF（上側）	15 分 （標準設定）
ON（下側）	30 分

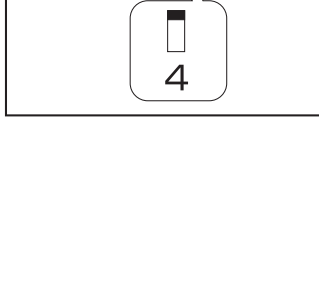
グロータイムの設定

解説

この設定により、アンテナユニットがエンジンスターターの始動信号を受信してから、セルを回すまでの時間を変更することができます。
グロータイムを短く設定すると、リモコン操作からエンジン始動までの時間を短くすることができますが、車両によっては正常なエンジン始動ができなくなります。
（特にディーゼル車の場合は冬期など寒冷時に掛からなくなる恐れがあります。通常は標準設定のままお使いください。）

設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.4「グロータイム」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	グロータイム
OFF（上側）	8 秒 （標準設定）
ON（下側）	5 秒

ターボタイマー機能の作動時間設定

参考

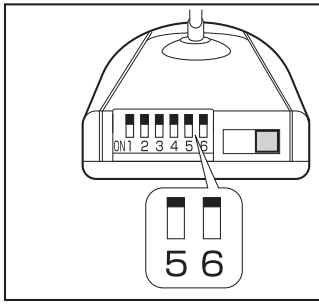
・この機能はターボタイマー機能を使用する場合のみ設定してください。

解 説

本品は、ターボタイマーの作動時間を0分（なし）・1分・2分・3分の中から選択することができます。

設定方法

アンテナユニットの設定スイッチNo.5とNO.6「ターボタイマー時間」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	アイドリング時間
両方OFF（上側）	使用しない（標準設定）
5のみON（下側）	1 分
6のみON（下側）	2 分
両方ON（下側）	3 分

関連項目

ターボタイマーを使用する（→P22）

基本的な設定

基本的な設定

LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する

解 説

本品は、アンテナユニットのLEDスキャナーを作動させるかどうか設定することができます。
※キーによるエンジン始動中は、LEDスキャナーは自動的に消灯します。

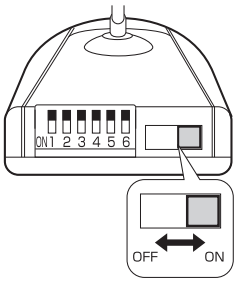
参考

・LEDスキャナーの消費電流について
本品のLEDスキャナーは、約0.2mAという非常に低い消費電流で作動しているため、LEDスキャナーを使用することで車両バッテリーに過大な負担を与える心配はありません。

・スリープモード時の動作について
本品のアンテナユニットは、14日以上車両のエンジンを始動させなかった場合、「スリープモード」に入り、エンジンスターター機能を停止します。
尚、その際は本設定に関係なくLEDスキャナーが点灯しなくなりますのでご注意ください。

設定方法

アンテナユニットのスライドスイッチを切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	LEDスキャナー
OFF（左側）	OFF
ON（右側）	ON（標準設定）

システム初期設定

この項では、取付け時に行う設定内容を詳しく解説しています。通常、取付け後に設定を変更する必要はありません。
またこの設定項目の中には、むやみに変更すると正常に作動しなくなるものがありますので、必要な場合以外は変更しないようにお願いします。

サイドブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・ 30
P/N検出・フットブレーキ検出の設定 ・・・・・・・・・・ 31
ホンダABS装着車に取付ける場合の設定 ・・・・・・・・・・ 32
ノイズ検出モードの設定 ・・・・・・・・・・ 33
スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定 ・・・・・・・・・・ 34
ボンネットオープンセンサーを使用する場合の設定 ・・・・・・・・・・ 35
P/N検出時のST1/ST2切替 ・・・・・・・・・・ 36
P/N検出データの設定方法 ・・・・・・・・・・ 37

初期設定 システム

サイドブレーキ検出の設定

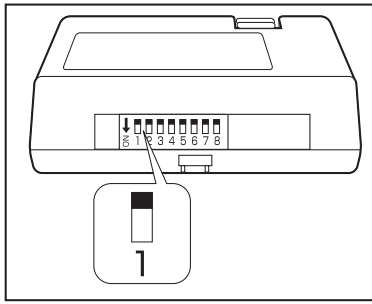
※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解説

本品は、サイドブレーキ（または足踏み式のパーキングブレーキ）が掛かっていない時はリモコンからエンジンを始動できないようにすることができます。
これは本品の安全機能の1つですが、寒冷地などサイドブレーキを掛けずに駐車することがある場合は標準設定のままご使用ください。
また、サイドブレーキ検出を行う（「キャンセルしない」に設定する）場合は必ずサイドブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
車両配線に関しては、別紙「TE830取付マニュアル」を参照してください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.1「サイドブレーキ検出キャンセル」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	サイドブレーキ検出キャンセル
OFF（上側）	キャンセルしない
ON（下側）	キャンセルする（標準設定）

P/N検出・フットブレーキ検出の設定

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解説

本品の安全機能にはフットブレーキ検出機能とP/N検出機能がありますが、使用にあたっては、これらの安全機能のうちどちらかを選択していただく必要があります。
これらはエンジンスターター機能およびターボタイマー機能を安全に使っていただくための重要な設定ですので、取付け時に正しく設定が行なわれている必要があります。

参考

・フットブレーキ検出を行う場合は必ずフットブレーキ検出コードを車両に配線する必要があります。
詳しくは、別紙「TE830取付マニュアル」を参照してください。

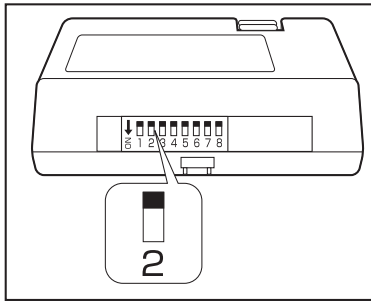
・ P/N検出を行なう場合は併せてP/N検出時のST1/ST2切替（→P36）および P/N検出データの設定（→P37）を行なう必要があります。

・ P/N検出は、車両によっては検出できない場合があります。その際はご面倒でもフットブレーキ検出を行なう必要があります。

・P/N検出は本品の構造上、以下のような場合にデータを消失するようになっています。
これらの作業を行なった場合は、P/N検出データの設定を行なってください（→P37）
▼車両のバッテリーを交換した場合
▼本品メインユニットのハーネスを抜き差しした場合
▼本品リセットスイッチ（別売）を使用してメインユニットをリセットした場合
▼本品メインユニットのループコードを抜き差しした場合
▼その他本品メインユニットの電源が断ち切られた場合

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.2「フット/PN切替」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	フット/PN切替
OFF（上側）	フットブレーキ検出
ON（下側）	P/N検出 （標準設定）

関連項目

P/N検出データの設定方法（→P37）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P36）
バッテリー交換時などのP/N検出データ再設定について（→P43）

初期設定 システム

ホンダABS装着車に取付ける場合の設定

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解説

ABS（アンチロック・ブレーキ・システム）を純正装着しているホンダ車に本品を取付ける際のみこの設定を行なってください。
これ以外の車種に取付ける場合は必ず標準設定のままご使用ください。

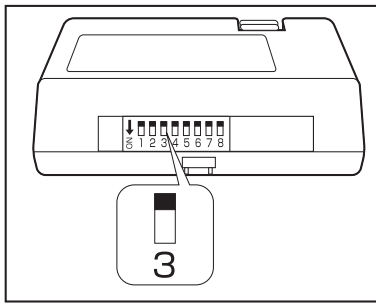
参考

・ ホンダABS装着車に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動時にメーターパネル内のABS警告灯が点灯したままになる場合があります。

・ホンダABS装着車以外に取付ける場合にこの設定を誤ると、エンジンスターターによる始動が正常に行なわれない場合があります（セルは回るがエンジンが掛からないなど）。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.3「ホンダABS」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	ホンダABS
OFF（上側）	非装着車 （標準設定）
ON（下側）	装 着 車

ノイズ検出モードの設定

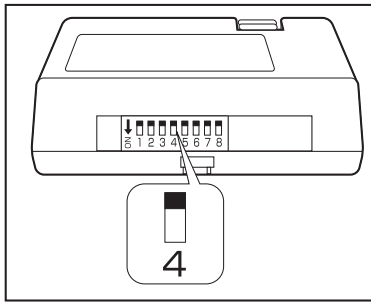
※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解 説

エンジンスターター使用時、実際にはエンジンが掛かっているにも関わらず本品が始動判断を行なえないために、すぐにエンジンが停止してしまう場合に設定を行なってください。
それ以外の場合は必ず標準設定のままご使用ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.4「ノイズ検出」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	ノイズ検出
OFF（上側）	しない （標準設定）
ON（下側）	す　る

初期設定 システム

スターターカット（乗り逃げ防止）機能のON/OFF設定

※ドアロック配線を行なっていない場合も本機能はお使いいただけます。

解 説

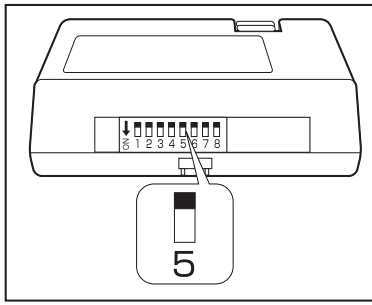
本品は、万一の際に車両の乗り逃げを防ぐため、本品のリモコンでドアをロックしている時にはセルモーターが回らないようにすることで、例え純正の鍵を使用した場合でもエンジンを掛ける動作を禁止できます。
リモコンでドアをアンロックすると通常のエンジン始動が行なえるようになります。
また、本機能の作動中でも、本品のリモコンからエンジンを掛けることは可能です。
尚、この機能は純正イモビライザー装着車でも同様にお使いいただけます。

⚠注意

- この設定を行なった場合、ドアロック中にリモコンが電池切れになり、リモコンからドアアンロックができない状況ではキーによるエンジン始動ができなくなることをご承知置きください。その場合は、リモコンの電池を交換してからドアアンロックの操作をして本機能を解除する必要があります。
- リモコンの電池容量が不足してくると、リモコン操作時に青色バックライトの明るさが暗くなったり不安定になります。このような状態になったら、あらかじめ早めに電池交換を行なっておいてください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.5「スターターカット」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	スターターカット
OFF（上側）	使用しない （標準設定）
ON（下側）	使用する

強制解除の方法

スターターカット中のリモコン紛失などの場合は、以下の手順で本機能を強制解除してください。

①純正キーを使用して車両ドアを開ける
②メインユニットから車種別専用ハーネスを抜く
③10秒程度待ってから再び車種別専用ハーネスを差し込む

尚、P/N検出を設定している場合（→P31）は、P/N検出データの再設定を行なってください。（→P37）

ボンネットオープンセンサーを使用する場合の設定

※この設定は通常、取り付け時のみに行なうものです。
特に変更の必要が無い場合に設定を変更すると、本品が正常に作動しなくなる恐れがありますのでご注意ください。

解説

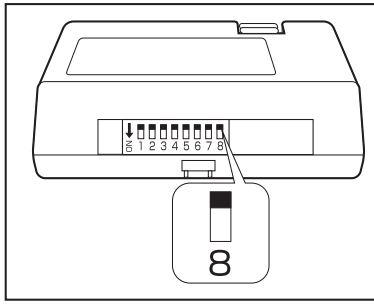
本品は別売のTE602「ボンネットオープンセンサー」を使用することで、ボンネット開放時のエンジン始動を防ぐことができます。

⚠注意

この設定はボンネットオープンセンサーTE602（別売）を使用する場合のみ設定してください。
ボンネットオープンセンサーを接続していないにも関わらずこの設定を変更すると、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能が使用できなくなりますのでご注意ください。

設定方法

メインユニットの設定スイッチNo.8「ボンネットセンサー」を切り替えることで設定が行なえます。



スイッチの位置	ボンネットセンサー
OFF（上側）	使用する
ON（下側）	使用しない（標準設定）

P/N検出時のST1/ST2切替

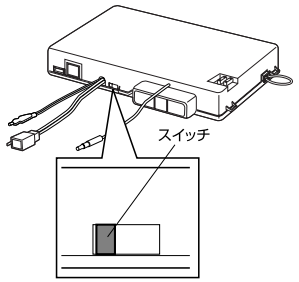
※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P31）のみ設定が可能です。

解説

この設定は、P/N検出（→P31）を使用する場合、正常なシフトポジション検出ができるように行なうものです。

設定方法

メインユニットの専用ハーネス差し込み口横にあるスライドスイッチ を切り替えることで設定が行なえます。
正常にP/N検出が行なえる位置でご使用ください。



スイッチの位置	P/N検出モード
右　側	ST1（標準設定）
左　側	ST2

初期設定 システム

関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の設定（→P31）
P/N検出データの設定方法（→P37）

P/N検出データの設定方法

※本体設定がP/N検出モードになっている場合（→P31）のみ設定が可能です。

解説

以下のような場合には、本頁記載の手順に従ってP/N検出データの設定が必要です。

▼はじめて本品を取付けた時
▼本品を他の車両に付替えた場合
▼リセットスイッチ（別売）を使用してメインユニットをリセットした場合
▼本品のヒューズを交換した場合
▼車両のバッテリー交換した場合
▼本品メインユニットの車種別専用ハーネスを抜き差しした場合
▼ループコードを抜き差しした場合
▼その他本品メインユニットの電源が断ち切られた場合

設定方法

＜P/N検出データの設定手順＞

※設定は車に乗り込んで行ないます。

記号の見方

▬	長い音（ピー）
●	短い音（ピッ）

シフトレバーを「P」にしてキーを抜く

リモコンでエンジンスタート操作をする

エンジンが掛かる場合
P/N設定済みあるいはフット接続済みです。
（このままお使いください）

アンテナユニットから「ピー・ピー・ピー・ピー」×2回鳴る
▬ ▬ ▬ ▬ ×2
※他の音が出る場合はP45参照

20秒以内に
キーをON（メーターパネルが点灯する位置）にする
(NG) → アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ▬ ×2
車種別専用ハーネス品番および車種別専用ハーネス取付状態を確認してください。
※20秒以内にキーをONに出来なかった場合は、もう一度最初から設定を行います。

(OK) ※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
▬ ×1

20秒以内に
ブレーキを踏んでシフトレバーを「R」にする
(NG) → アンテナユニットから「ピ・ピ・ピ・ピー」×2回鳴る
● ● ● ▬ ×2

(OK) ※OK・NG いずれかの音がするまでそのまま待機

アンテナユニットから「ピー」と1回鳴る
▬ ×1

P/N検出モードを切り替えて（→P36）再度設定を行います。
※20秒以内にシフトを「R」に出来なかった場合は、もう一度最初から設定を行います。

設定完了

P/N検出モードを切り替えても設定できない場合

P/N検出の設定ができない車です。専用ハーネスの「フットブレーキ検出コード」を、「車両のフットブレーキを踏んだときに12V」かつ、「離したときに0V」となるコード（通常はブレーキペダルの根元にあります）に、付属のワンタッチコネクターBで接続します。
正常に接続できた場合は、フットブレーキを踏んだ際にメインユニット内の検電LEDが点灯します。また、フットブレーキの配線を行なった場合は、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えてください。

関連事項

P/N検出・フットブレーキ検出の設定（→P31）
P/N検出時のST1/ST2切替（→P36）

取付け後のメンテナンスなど

この項では、消耗品パーツの交換や故障と思われる際のトラブルシューティングなど、
本品を長くご愛用いただくために必要な情報を解説しています。

スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法） ・・・・・・・・・・ 40
リモコンの電池交換について ・・・・・・・・・・ 41
交換用ヒューズについて ・・・・・・・・・・ 42
バッテリー交換時などのP/N検出データ再設定について ・・・・・・・・・・ 43
エンジンスターター機能が作動しない場合 ・・・・・・・・・・ 44
故障かな?と思ったら ・・・・・・・・・・ 47

スペアリモコンを使用する（リモコンIDの書込み方法）

解説

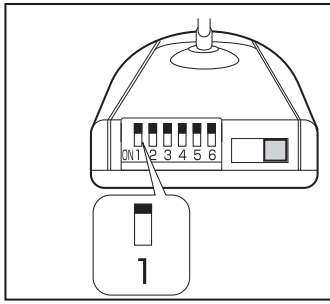
本品は、別売のスペアリモコン（品番:TER830）を追加することで、2台のリモコンで操作することができるようになります。（追加できるリモコンは1台までです。）
※リモコンはお近くのカー用品専門店などでお買い求めいただけます。（弊社での通販などは行なっていません）また、店頭に在庫が無い場合はお取り寄せとなりますのでご了承ください。

IDの書込み方法

2台のリモコンを使用できるようにする場合は、あらかじめ2台のリモコンを準備しておいてください。

1. 車両のエンジンが停止した状態でキーを抜きます。
2. アンテナユニットの設定スイッチNo.1「ID書込」を「書込」（ON側）にします。
3. およそ3秒くらい待ってから、リモコンでエンジンストップの操作（→P18）をします。
4. アンテナユニットからまず「ピッ」という確認音が鳴り、しばらくして書込が完了すると「ピピピッ」という確認音が鳴ります。
5. もう1台のIDを書き込む場合は、リモコンを替えて更に3～4の操作を繰り返します。
6. 書込みが終了したら、アンテナユニットの設定スイッチNo.1「ID書込」を「通常」（OFF側）にもどします。

※周囲の電波状況などにより、正常に書込みできない場合があります。そのような場合は再度書込み操作を行なってください。



スイッチの位置	ID 書込
OFF（上側）	通　常 （標準設定）
ON（下側）	書　込

リモコンの電池交換について

解説

本品の電池寿命（CR2025×2ヶ）は、常温時において1日2回の使用で約半年間です。
電池が消耗すると、送信距離が短くなったり、操作ができなくなることが考えられますので、定期的な電池の交換をおすすめします。また、出荷時にあらかじめリモコンに入っている電池はモニター用につき、通常より電池寿命が短くなる場合があります。
※本品に使用する電池（CR2025×2ヶ）は、コンビニエンスストア等でもお買い求め頂けます。

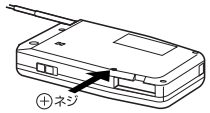
注意 電池交換の際は、2ヶの電池を共に新しい電池と交換してください。
古い電池と新しい電池を混ぜて使用すると液漏れ等の原因になりますので絶対に行なわないでください。

参考 リモコンの電池容量が不足してくると、リモコン操作時に青色バックライトの明るさが暗くなったり不安定になります。このような状態になったら、あらかじめ早めに電池交換を行なっておいてください。

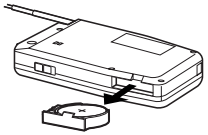
電池の交換方法

※交換時は非常に小さいネジを外します。万一落とした場合に紛失しないよう、できるだけ室内での作業をおすすめします。

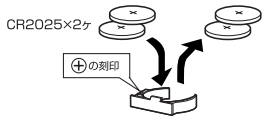
1. リモコン本体右横の電源スイッチをOFFにします。
2. 精密ドライバーを使用し、リモコン裏面の電池ブタ部分にある⊕ネジを外します（ネジの紛失に注意）。



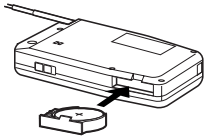
3. 電池ブタを横にスライドして外します。



4. ⊕ ⊖ の方向に注意して電池を交換します。



5. 電池ブタを戻し、2 で外したネジで止めます。



6. リモコン本体右横の電源スイッチをONにします。

使い終わった電池は

使い終わった電池は、各自治体が定める方法で処理してください。

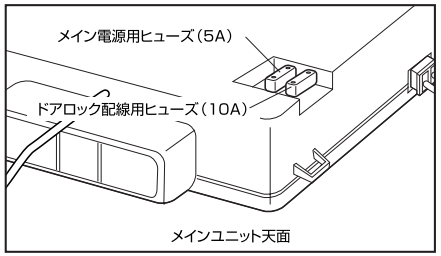
交換用ヒューズについて

解説

本品は、万一の配線ショート等に備え、メインユニットに交換可能なヒューズを装備しています。

注意 指定容量以外のヒューズは使用しないでください。故障や電気配線の損傷・火災の原因となる場合があります。

ヒューズの交換方法



共に市販の「ミニ平形ヒューズ」を使用します。
専用オプションの設定はありません。

1. エンジンを停止させ、本品から車種別専用ハーネスを外します。
2. 切れているヒューズを引き抜きます。（本品に専用工具は付属していません。市販の工具を使用してください。）
3. ヒューズが切れた原因が取り除かれていることを確認してから、新しいヒューズを差し込みます。
4. 車種別専用ハーネスをもとにもどします。
5. 本品を作動させ、ヒューズが切れないことを確認します。
6. 必要に応じてP/N検出の再設定を行なって下さい（→P37）。

取付後のメンテナンスなど

バッテリー交換時などのP/N検出データ再設定について

※フットブレーキ配線を行なっている場合は設定の必要がありません。

解説

本品のP/N検出データは、以下のような場合にメモリーから消滅します。
その場合、37ページ記載の手順に従ってP/N検出データを再設定する必要があります。

▼本品を他の車両に付け替えた場合
▼別売のリセットスイッチを使用してメインユニットをリセットした場合
▼本品のヒューズを交換した場合
▼車両のバッテリーを交換した場合
▼本品メインユニットのハーネスを抜き差しした場合
▼本品のループコードを抜き差しした場合
▼その他本品メインユニットの電源が断ち切られた場合

参考 P/N検出の設定を行なわない場合、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能が使用できなくなりますが、ドアロック及びスターターカット機能には影響しません。

設定方法

設定の方法は37ページをご覧ください。

エンジンスターター機能が作動しない場合

必ず下記の手順に従って確認作業を行なってください。

手順 ❶ リモコンの状態を確認する

・リモコンの電池は正しく入っていますか?(→P41)
・リモコンの電源スイッチはONになっていますか?(→P16)
・リモコンの電池が消耗していませんか?

手順 ❷ 取付車種および取付ハーネス品番を確認する

・取付車種が本品の取付不可車種になっていませんか?(店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。)
・ハーネスの品番は合っていますか?(店頭の車種別ハーネス適合表等で確認してください。)

手順 ❸ キーでエンジンがかかるかどうか確認する

(※)あらかじめP20の「ドアをアンロックする」を参照の上、スターターカット機能をOFFにしてください。
スターターカット機能(→P34)がONになっているとキーでのエンジン始動は行なえません。

キーでもエンジンがかからない場合

・車種別専用ハーネスが正しく接続されているかどうか確認してください。
正しく接続されている場合は、キーをONにした際に、メインユニットの検電LEDの緑色が点灯します。点灯しない場合は、接続のゆるみや接続場所を確認してください。

キーならばエンジンがかかる場合

・純正イモビライザー装着車の場合は、イモビ付車対応アダプター(TE412など)の配線・ループアンテナの取り付け位置・ケース内のキーの固定位置などを調整してください。
・メインユニットのヒューズが切れていないかどうか確認してください。
・メインユニットの設定スイッチNo.3「ホンダABS」の設定を確認してください。

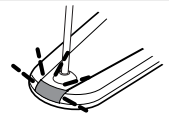
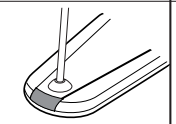
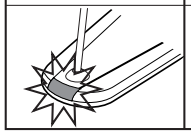
手順 ❹ 通常待機時のLEDスキャナーの発光状態を確認する

アンテナユニットの先端にあるLEDスキャナーの発光状態を確認します。
確認の際、直射日光の当たる場所など明るいところではLEDスキャナーの発光状態が目視しにくいことがあります。そのような場合はアンテナユニットの周囲を手で覆うなど、LEDスキャナーの点灯状態が見やすいようにして確認してください。

(※)あらかじめ、P28の「LEDスキャナー機能のON/OFFを設定する」を参照の上、アンテナユニットのLEDスキャナーが点灯する状態にしてください。

取付後のメンテナンスなど

取付後のメンテナンスなど

	LEDの状態	原因・対処方法
	ゆっくり点滅を繰り返している場合	通常の受信待機中です。 手順❺に進んでください
	ランプが消えたままになっている	エンジンキーがONの位置になっている場合は、エンジンキーを抜いてください。キーが抜いてあるにもかかわらず、アンテナユニットのLEDが点滅しない場合、本品のアースコードの接続場所が適切でない可能性がありますので、アースコードの接続場所変更を試してください。また、アンテナユニットのコネクターがメインユニットに正しく接続されているか確認してください。
	ずっと点灯し続ける	ID書き込みモードになっています。 アンテナユニットの設定スイッチNo.1がONになっている場合はOFFに切り替えてください。

エンジンスターター機能が作動しない場合

手順 ❺ リモコンでのエンジンスタート操作時の液晶ディスプレイおよびLEDスキャナーの状態を確認する

本品にはエンジンの始動ができない原因を自己診断して、リモコンの液晶ディスプレイにエラーNo.を表示し、さらにアンテナユニットのLEDスキャナーおよびブザー音によって知らせる機能があります。

操作方法

リモコンの START ボタンを押し、エンジンスタートの操作をしてください。（→P17）

その時リモコンの液晶ディスプレイに表示される内容とアンテナユニットのLEDスキャナーおよびブザーの状態を確認してください。

エラー表示一覧表

●＝短いブザー音およびＬＥＤの点灯　　▬＝長いブザー音およびＬＥＤの点灯

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err 0	●●●● ●●●●	◎ボンネット検出エラー ボンネットセンサー（別売）を使用していないにも関わらず、メインユニットの設定スイッチNo.8（ボンネットセンサー）が「使用する」（OFF側）になっている可能性があります。ボンネットセンサーを使用しない場合は必ず「使用しない」（ON側）に設定しておいてください。 ボンネットセンサー（別売）を使用している場合 ボンネットセンサーの取り付け・配線が誤っている可能性があります。ボンネットセンサーの取扱説明書に従って、正しく取付されているかどうか確認してください。
Err 1	●●●▬ ●●●▬	◎P/N検出エラー 2 シフトポジションが「P」または「N」以外の位置になっている可能性があります。エンジンを掛けることができる位置にシフトポジションを切替えてください。 シフトポジションが「P」または「N」の位置であるにも関わらずこのエラーが出る場合は、メインユニットの車種別専用ハーネスを一旦ぬいて10秒ぐらい待ってから再度差し込み、P37を参照の上再びP/N検出データの設定を行なってください。
Err 2	●●▬● ●●▬●	◎フットブレーキ検出エラー フットブレーキ検出コード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）の配線が誤っている可能性があります。車両のフットブレーキを踏んだ際にメインユニットの検電LEDの赤色が正常に点灯することを確認してください。 フットブレーキ検出を使用せずにP/N検出を使用する場合は、必ずメインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「P/N」（ON側）に切り替えてください。
Err 3	●●▬▬ ●●▬▬	◎サイドブレーキ検出エラー サイドブレーキ検出を使用しない場合は、メインユニットの設定スイッチNo.1（サイドブレーキ検出キャンセル）が「キャンセルする」（ON側）になっているかどうか確認してください。サイドブレーキ検出を使用する場合は、サイドブレーキ検出コード（車種別専用ハーネス付属の細い橙コード）の配線が誤っている可能性があります。サイドブレーキ検出コードの配線を確認してください。
Err 4	●▬●● ●▬●●	◎L端子エラー L端子の配線が誤っている可能性があります。 配線を確認してください。（下記参考参照）

取付後のメンテナンスなど

P46へつづく ↓

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、① バッテリーへ行く太いコード以外で、② イグニッションON時に+1～+2Vが出ていて、③ エンジン始動後+12Vが出るコードです。

エンジンスターター機能が作動しない場合

リモコンの表示	ブザー音およびLEDの状態	原因・対処方法
Err 5	●▬●▬ ●▬●▬	◎バッテリー容量エラー 車両バッテリーの電圧が低く、セルモーターを回せません。車両のバッテリーを充電してください。 （バッテリー上がりを未然に防ぐための機能です）
Err 7	———	◎イグニッションエラー 車両のイグニッションがキーによってONになっています。イグニッションキーを抜いてください。
Err 8	▬●●● ▬●●●	◎スリープモード 14日以上エンジンをスタートさせていない場合は、スリープモードに入るためエンジンスタートができません。 キーで一度エンジンを掛けてスリープモードを解除してみてください。
Err 15	▬▬▬▬ ▬▬▬▬	◎P/N検出エラー 1 P/N検出が設定されていません。 P37を参照の上、P/N検出の設定を行なってください。P/N検出が正常に行なえない車両の場合は、メインユニットの設定スイッチNo.2（フット/PN切替）を「フット」（OFF側）に切り替えて、フットブレーキコード（車種別専用ハーネスの細い紫コード）を配線してください。（→別紙TE830取付マニュアル参照）
Err98	———	◎ID書込エラー アンテナユニット設定スイッチのNo.1（ID書込）がON（下側）になっています。 設定スイッチをOFF（上側）にしてください。
Err99	———	◎通信エラー リモコンとアンテナユニット間の通信が成立しませんでした。 くわしくは、P18～P20に記載されている 参考 を参照してください。
——	●▬▬● ●▬▬●	◎始動判断エラー1（始動判断できない） セルは回るが、エンジンがスタートしない場合 セルモーターの作動時間が短いことが考えられます。アンテナユニットの設定スイッチNo.2（セル回転時間）を「長め」（ON側）に切り替えてください。また、イモビ付車対応アダプター（TE412など）を使用している場合は、アダプターが正常に取り付けられているか確認してください。 エンジン始動後すぐに止まってしまう場合 車両特性によりエンジンの始動判断が行なえません。メインユニットの設定スイッチNo.4（ノイズ検出）を「する」（ON側）に切り替えてください。それでも始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続してください。（下記参考参照）
——	エンジンが始動しないのに点灯したままの状態が続く場合	◎始動判断エラー2（誤った始動判断を行なう） 車両特性により、誤った始動判断を行なっています。メインユニットの設定スイッチNo.3（ホンダABS）の設定を確認してください。解決しない場合はさらにメインユニットの設定スイッチNo.4（ノイズ検出）を「しない」（OFF側）に切り替えてください。それでも始動判断が正常に行われない場合は、車両オルタネータのL端子コードに専用ハーネス付属のL端子コード（茶色の細い線）を接続してください。（下記参考参照）

取付後のメンテナンスなど

参考 L端子コードとは、エンジンルーム内のオルタネータから出ているコードのうち、① バッテリーへ行く太いコード以外で、② イグニッションON時に+1～+2Vが出ていて、③ エンジン始動後+12Vが出るコードです。

故障かな？と思ったら

	症　状	解　説	参照ページ
リモコンについて	リモコンが操作できない	リモコンの電池が消耗していませんか？ 新しい電池に交換してから操作してください。	P41
		リモコンの電源スイッチがOFFになっていませんか？ 電源スイッチを入れてから操作を行なってください。	P16
	リモコンでエンジンを止めることができない	キーでエンジンを掛けている時は、リモコンでのエンジン停止は行なえません。	P18
	エンジンスターターの操作時、車両側はエンジンが掛かるにも関わらず、リモコンへのアンサーバックが行なわれない。	本品のリモコンは、エンジンスターターの操作から約30秒間のみ車両からのアンサーバック信号を待ち受けています。この間に何らかの原因によりアンサーバック信号を受信できなかった場合は、そのまま液晶表示を終了します。	P17
	車両側は、正常に動作しているにも関わらずリモコンに Err99 と表示される。	リモコンから車両側への通信は、正常に行なわれたが、車両側からリモコンへのアンサーバック信号が何らかの原因により受信できなかった事が考えられます。	P17～P21
	アンサーバック時のバックライト色が一定でない。	アンサーバック時のバックライト点灯色は、本品によりエンジンを始動している時は「青色」が点灯し、それ以外の場合には「赤色」が点灯するようになっています。	P17～P21
	リモコン操作時、液晶ディスプレイが表示されるまでに時間がかかる。	液晶の特性上、低温時の表示には多少時間がかかる場合があります。リモコン内部の温度が上昇すれば表示は元に戻ります。	–
	バックライトや液晶表示が暗くなったり不安定な状態になる。	リモコンの電池が消耗していると思われます。 新しい電池に交換してください。 また、低温になる場所にリモコンを置いておくと、一時的に電池電圧が低下してリモコンの表示が薄くなる場合がありますが、常温になれば元に戻ります。	P41

	症　状	解　説	参照ページ
エンジンスターター・ターボタイマー機能について	エンジンスターターが作動しない	P/N検出データが消失していませんか？ 再度データを書き込んでください。	P37
		その他の原因の場合は「エンジンスターター機能が作動しない場合」を参照の上、確認作業を行なってください。	P44～P46
	突然エンジンスターター機能が使えなくなってしまった	P/N検出データが消失していませんか？ 再度データを書き込んでください。	P37
	ターボタイマーが作動しない	ターボタイマー機能の設定が正しく行なわれていますか？	P27
	エンジンスターター・ターボタイマーのアイドリング中、純正リモコンドアロックが作動しない	ほとんどの純正リモコンドアロック装着車は、車両の仕様上エンジン始動中に純正リモコンドアロックが作動しないようになっています。このような車両の場合、エンジンスターター機能およびターボタイマー機能によるアイドリング中は、本品のドアアンロック機能を使用するか、キーを使用してドアを開ける必要があります。	–

	症　状	解　説	参照ページ
セキュリティ機能について	スターターカット機能が作動しない	出荷時の設定状態では、スターターカット機能の設定が行なわれていません。 スターターカット機能を設定してください。	P34
	アンテナユニットのLEDスキャナーが点灯しない	LEDスキャナー機能がOFFになっていませんか？ LEDスキャナー機能をONにしてください。	P28

取付後のメンテナンスなど

故障かな？と思ったら

	症　状	解　説	参照ページ
その他の症状	全く作動しない	メインユニットのヒューズが切れていませんか？ 配線を再確認してから新しいヒューズ（別売）を差し込んでください。	P42
		リモコンの電池が消耗していませんか？ 電池を交換してから操作してください。	P41
		リモコンの電池は正しく入っていますか？ 入っていない場合はリモコンに電池を入れてください。	P41
	通信距離が短い	アンテナが収納された状態の場合、通信距離は短くなります。 できるだけアンテナを伸ばした状態で操作してください。	–
		リモコンの電池が消耗していませんか？ 新しい電池に交換してください。	P41
		リモコンと車の間に電波を遮断する障害物が多いことが考えられます。特に金属物質は電波を通しにくく、通信距離を著しく縮めますので使用の際はご注意ください。	–
	ドアロック機能が使用できない	ドアロック機能はドアロック適合車種のみ使用可能です。 また、ドアロック機能を使用するには別途ドアロック配線が必要となりますのでご注意ください。	–
		ドアが開いているとドアロックモーターが作動しない車種がありますので、必ず全てのドアを閉めてからドアロックの操作を行なってください。	P19
	キーによるエンジン始動ができない	本品の「スターターカット機能」が働いていませんか？ ドアのアンロック操作を行なってスターターカット機能をOFFにしてから再度始動を試みてください。	P20・34
		車種別専用ハーネスが緩んでいたり、本品のメインユニットが接続されていない場合、キーによるエンジン始動ができなくなります。 接続が確実に行なわれているかどうか確認してください（キーでイグニッションをONにした時に、メインユニットの検電LEDの緑が光っているかどうか確認してください）。	–
	ドアをアンロックすると車両の純正ホーンが鳴る	純正のセキュリティアラームなどが装備されている車両の場合、純正リモコンドアロックでドアをロックした後、本品でドアアンロックを行なうと、純正セキュリティアラームが異常と判断してホーンを鳴らす場合がありますが異常ではありません。 このような車両の場合、ロック操作とアンロック操作を同一のリモコンで行なう必要があります。	–
	その他、動作が不安定な場合	車種別専用ハーネスのアースコードが確実なアースポイントに接続されているか確認してください。	–

取付後のメンテナンスなど

仕　様

技 術 基 準	特定小電力無線局テレコントロール用無線設備
使 用 周 波 数	429MHz帯の10波のうち1波を使用
通 信 方 式	単信方式
送 信 出 力	10mW
送 信 時 間	3秒以内
送信休止時間	2秒以上

■リモコン

外 形 寸 法	約77x34x19.5(mm)
重　　量	約46g
使 用 電 池	CR2025×2ヶ
電 池 寿 命 （常温時）	約半年 （1日2回の送信を行なった場合）
作動温度範囲	0℃ ～ +60℃

■メインユニット

外 形 寸 法	98x158x28(mm) （突起部含む）
重　　量	約230g
電 源 電 圧	DC12V
消 費 電 流	約15mA（待機時） （スリープモード付）
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃

■アンテナユニット

外 形 寸 法	76x44.5x19.5(mm) （アンテナ部除く）
重　　量	約115g
コ ー ド 長	約2.9m
作動温度範囲	−20℃ ～ +70℃